



前立腺肥大症の治療

前立腺肥大症に対する治療方法は、基本的には薬物療法です。最近では、前立腺部尿道の緊張をとるアルファ遮断剤の他に、ホスホジエステラーゼ5 (PDE5) という酵素を阻害し血管拡張作用や前立腺及び膀胱平滑筋弛緩作用をあらわすことで前立腺肥大における排尿障害を改善する薬が導入されてことで、大きな変換点を迎えています。しかし、薬物療法が効果がなく治療に抵抗する場合には、手術が基本となります。手術は、開放手術と内視鏡手術が双璧となります。

開放手術（いわゆるお腹を切る）の時代はすでに過ぎ去り、開放手術に行わなければならない症例は極めて稀になってきています。

内視鏡手術は、歴史的に単極式電気メスを使った1) 経尿道的前立腺切除術 (TURP)がゴールドスタンダードと言われてきました。しかし、灌流液による電解質異常が発生することもあることから、手術時間が1時間と制約がありました。その後2) 双極式電気メスを使った2) 生理食塩水利用の経尿道的前立腺切除術 (TURIS)が、導入され、手術時間の制約や電解質異常が生じにくいように

なりました。しかし、電気メスによる切除は抗凝固剤（血液サラサラ）を服用している患者様が増えてきている昨今使いにくいかもしれません。そこで、ここ10年くらいで、徐々にレーザーを利用した前立腺切除術が使われるようになってきました。当院ではレーザー手術の中でもPVP（光選択式前立腺蒸散術）を行うことのできる東北で数少ない病院です。PVPは532nmというきわめて短い波長の可視光レーザー（目に見えるレーザー）を使用して治療することができます。

532nmのレーザーは本当に綺麗な緑色をしています。このレーザーの特性は、酸化ヘモグロビン（血液の成分）を蒸散する特別なレーザーであり、このレーザーにより、瞬間的に組織は100度に蒸散して炭化消失します。もちろん、出血は全くないわけではないのですが、術前の薬の休止期間や開始時期を早くすることができ、不整脈を有する患者さんでも使用することができる優れた治療装置です。治療に関して興味がある方は、外来で気軽にご相談ください。

青年部通信

1月15日(金)に「雪中田植え」が行われます!!

場所：道の駅たかのす 大太鼓の館前

■農家の仕事始めと五穀豊穰を祈願

小正月（1月15日）に、その年の稲作の豊凶を占う行事として、六尺四方の雪の田んぼを作り、稲ワラ、豆から束ねたものを苗に見立て、4条ずつ16束を、ケラ（蓑）、菅笠姿で田植えを行います。

その後、2月1日には豊凶を占う稲刈りを行います。その際「稲」が直立していれば実が入らない不稔（ふねん）、倒れていけば風水害による倒伏を意味し、それぞれ凶作、たわわに実った稲穂のように適度に傾いていけば豊作という一年のお告げが出るとされています。

